

(様式2)

令和2 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1590100499		
法人名	社会福祉法人愛宕福社会		
事業所名	グループホーム空港西(1階)		
所在地	新潟市東区空港西1丁目17番19号		
自己評価作成日	令和2年9月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	令和2年10月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の玄関を開けると目に入ってくる「よろこんで、怒って、泣いて、笑えるそんな…自由な…家でありたい…」開設当初にご利用者が施設に入居されここで暮らしになる時に心から思われた言葉を書き表して頂いたお気持ちがグループホーム空港西の理念となりました。「孤独感や無力感を抱かせず喜怒哀楽を自由に表に出していただける家」この言葉の通りに生活していただける様支援しております。支援内容はご利用者個別対応で24時間シートを使用し職員が個々のご利用者の支援を把握し行っております。「もう、歳だから」、そんな声はご利用者からは聞く事はなくいつまでも女性は女性らしさを、男性は男性らしさを何よりもご利用者からは「自分らしさを」。職員がご利用者から学びながら支援に入らせて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、新潟県内全域および関東圏にも福祉施設を展開する大規模法人の事業所として平成21年に開設している。母体法人は介護保険施設の他に障害福祉サービスや専門学校なども運営しており、新潟県の福祉のトップランナーである。

事業所は閑静な住宅街の一角に位置し、建物のモダンな外観は違和感なく街並みにマッチしている。幹線道路や商店街も近く生活の利便性も良い。徒歩で行けるとところに同法人の小規模多機能型事業所が開設されて今年で8年が経過し、ようやく一体的に事業展開が出来るベースが整ってきたところである。

一人の利用者が思いを綴った書(習字)をそのまま事業所理念として掲げ、職員一人ひとりがいつでもそれをケアの拠り所として利用者の尊厳ある生活を支えている。今年に入って管理者の交代があり、現在の経験豊富な管理者の指導により業務の効率化を図るために見直しを行っているところである。開設以来継承されてきた業務の慣例についても、何故そのような対応を行っているのか、本当にそのやり方が正しいのかなどを考える機会を作り、より利用者の利益となるように改善している。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度始めに職員会議で理念の確認を行っている。また不適切ケアや虐待研修でも施設の理念を基に検討を行っている。	一人の利用者が思いを綴った書(習字)を事業所理念として掲げており、毎年、年度初めには理念について考える機会を設けている。人間としての当たり前な感情を大切にしたい理念は、日常のケアの中にしっかりと息づいており、個別のケアを検討する場や事故報告の場など事あるごとに理念に立ち返り、業務の検討や改善が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年、行われる町内のお祭りや運動会等に参加している。買い物や散歩等日常生活の中で地域に出かけている。	新型コロナウイルス感染拡大防止により今年中止となっているが、これまでは地域の祭り、運動会、防災訓練などに積極的に参加して交流を持っていた。現在は日常的に、散歩の際の挨拶から回覧板のやり取り、近所の喫茶店の利用などを意識的に行なっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キッズサポート養成セミナーの受け入れを行ない(小中学生保護者20名)認知症の方の理解や支援の関わり方の体験講座を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、開催している。感染対策の為3月からの開催は活動内容を郵送で報告している。	新型コロナウイルス感染拡大防止により、現在は委員の参集は行っておらず、定期的に個々のメンバーから書面で送付した議題の内容について意見聴取を行なっている。近隣の他法人の事業所数か所の参加があり、同業他社ならではの貴重な意見をもらっている。小規模多機能事業所との合同開催により一体的な運営を目指している。	会議で話し合われた内容について、少なくとも利用者や家族に関わる内容については、何らかの手段で家族に周知することを望みたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故や申請の手続き、ケア内容の中で質問があった場合等必要に応じ行方が密な取り組みは行っていない。	市の福祉課とは電話やメールでのやり取りのほか、申請や報告等で役所を訪れることもある。地域包括支援センターとは、運営推進会議に参加してもらったり、利用者の紹介や事業所の空き状況の照会を受けたり、情報交換するなど密に交流している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修、法人研修、外部研修で身体拘束について研修に参加している。また理念を基に身体拘束・虐待について話し合いの機会を設けた。	マニュアルを整備し、計画に基づいた研修の実施により学びを深めている。現在、身体拘束につながるような場面はないが、利用者の安全を守るために機器の使用等が必要な場合は職員間で良く検討し、利用者の危険をいち早く察知するための条件を付けての導入を考えている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修、法人研修、外部研修で身体拘束について研修に参加している。また理念を基に身体拘束・虐待について話し合いの機会を設けた。不適切ケアの内部研修を行わない虐待防止に繋げている。	マニュアルを整備し、計画に基づいた研修の実施により学びを深めている。職員のストレスにも配慮して定期的にストレスチェックを実施している。会議の中で不適切ケアについて考える機会を設けたり、職員同士で互いに指摘しあえる関係構築を図っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用されているご利用者があり、職員は身近に支援を学ぶ機会はあるが権利擁護や日常生活自立支援事業について理解しているとは言えない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前調査時に施設の特徴や留意事項について説明し契約後にトラブルにならない様、契約前より細かな説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、ご利用者の様子を書面でお伝えする他、ご家族の面会時にもご利用の様子をお伝えし、ご家族からの要望も伺っている。面会時以外でもご家族と支援についての話し合いの日程を持つ様努めている。	全体的に家族の面会の機会が多いため、直接顔を合わせて意見や要望を聴き取っている。遠方の家族に対しては特に意識して連絡を密に取るようにしている。利用者からは日常の会話の中での意見や要望を聞き渡らさないようにして可能な限りすぐに実行するよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の会話の中や職員会議、ユニット会議で職員からの質問や意見交換ができる機会を設けている。	年に2回、管理者が職員と個別面談を行なって意見や要望、提案などを聴き取り、人事考課にもつなげている。職員会議の際は、あらかじめ議題を出しておくことにより職員が考える時間を設け、参加者全員が発言できるように促している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	残業時間、有給休暇を含めユニットの枠を超えて事業所として働きやすさを検討し職場環境の整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の職員の性格や力量を把握し研修を受ける機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣にあるグループホームの運営推進会議に参加したり、お互いの施設での相談や質問を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査の際に出来るだけご本人の同席を求めその際に要望等を伺っている。また、信頼関係を築く上でご利用者の強みと弱みを把握しご入居後は不安にならない様、寄り添う支援に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査時にご家族が困っている事不安や要望を伺い、ご入居に対しての罪悪感や不安の解消に繋がる様、施設でのご様子を小まめにご報告しご家族の心のケアにも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用申し込みの際、介護支援専門員からの意見書をお願いし、待機人数もお伝えしている。利用理由を把握し必要であれば他、サービスの相談も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者を介護される立場だけとせず、全てのご利用者が同等で、時には職員も含めお互いが支え合う形になるような存在作りに努めている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や受診、外出等の支援にご家族の支援のご協力も得られている。	管理者は、利用者に関する些細な状況変化でも家族に連絡することで情報の共有に努めている。中にはそんなに連絡をもらわなくてもいいと言われる家族もいるが、連絡を密にすることで共に支え合う関係を保っている。受診の付き添い、季節ごとの衣類の入れ替え、定期的な外出や外泊なども家族の役割としてお願いしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで住まわれていたご近所の方の面会や美容院等馴染みの関係が繋がりを継続している。	友人や知人が面会に来た時は、居室または相談室でゆっくり過ごしてもらっている。定期的に知人に手紙を送っている利用者には、職員が便箋を購入し準備している。また、利用者が携帯電話で個々に連絡を取っている場合もある。行きつけの美容院への外出支援や散歩の際の近所の方との挨拶のやりとりなど、馴染みの関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員からでは納得できない言葉もご利用者同士だと納得されたりとご利用者をご利用者を支え合える関係作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	問い合わせが合った場合は必要に応じて情報の共有を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時にご利用者の思いや日々の生活の中の過ごされ方や、やり取りを把握し反映するよう努めている。把握が困難なご利用者には職員がご本人の立場に立った視点で検討している。	アセスメントシートの「わたしの思いシート」に、本人や家族から直接記載してもらうことで思いや意向を確認している。入居後は定期的に利用者から聞き取りを行ない、その時々での思いや意向の把握に努めている。	利用者や家族から聞き取った思いや意向が介護計画と連動しておらず、反映し切れていない。また、定期的な聞き取りも行なっているが、生活の中で知り得た情報が書面等に残りにくく、情報共有が上手くいっていない。その時々での利用者の「思い」や「意向」を把握し、介護計画に反映出来るような仕組みづくりを期待したい。
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	「わたしの思いシート」を活用し1年に1度ご本人から聞き取りを行なっている。	入居の際に本人、家族と面談し聞き取りを行なっている。また、可能な限り自宅訪問したり、利用していたサービス事業所や居宅のケアマネージャー、かかりつけ医院などからも情報収集し、これまでの暮らしの把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	法人作成の24時間シートを活用しご利用者の1日の過ごされ方や心身の状況やその方強みの把握をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族やご利用者の希望や要望を確認し職員の意見も含め介護計画を作成している。また、ご利用者の状態の変化があった時にはご様子をお伝えし現状にあった計画に変更する等工夫している。	「24時間シート」を使って利用者の24時間の行動を把握し、行動に対して職員がどのように対応していくのかが詳細に記載されている。介護手順書に近い様式であるため、ケアプランシートの様式変更を検討中である。利用者・家族の意見や要望の反映にも努めており、新型コロナウイルス感染拡大以前は利用者や家族も参加のもとサービス担当者会議を開催していた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録は24時間シートとなっており食事、排泄、入浴の他、ご利用者の言葉をそのまま記録している。その情報を基に職員がユニット会議で話し合いを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	週に1度訪問看護を依頼し、医療機関の定期的な受診や往診を受けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事には住民の片より案内を頂き参加している。また、地域の方がボランティアで訪問されている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者が以前から通われていたかかりつけ医は継続して受診をされている。ご利用者の状態に応じ施設協力医を紹介を行っている。	受診付き添いについては家族の役割としてお願いしているが、難しい場合は事業所が対応している。利用者の約半数が事業所の協力医の訪問診療に切り替えており、訪問歯科、皮膚科の往診なども希望に応じて利用できる。医療機関との情報のやり取りは、電話や手紙で伝えることが多い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪看が週に1度ご利用者の健康チェックを行ない、24時間の電話相談で協力が得られる。また、協力医の看護職に相談できる関係性もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に必要な情報提供を行い、ご利用者・ご家族が入院生活を安心して過ごされる様協力している。入院中は相談員やご家族と連絡や相談を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・看取りについてご利用者の状態に合わせてご家族やかかりつけ医と相談を重ねている。施設の協力医には24時間往診体制がありご家族の希望でホームでの看取りを行っている。	本人、家族の希望があり、かつ事業所の態勢により対応可能な場合、看取りも行なっている。事業所の方針は明文化されており、入居時に説明するほか、状態変化の段階ごとに確認し同意を得ている。事業所での対応が難しい場合には、同法人の特別養護老人ホームへの入所申請を勧めている。職員の不安感も聞かれるため、研修を重ね実践につなげている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの講習を消防隊員による講習を毎年受けている。また、訪看から日常のご利用者の急変や初期対応などの助言を受けている。	緊急時の連絡体制が整えられており、誰でも対応できるように準備されている。定期的に心肺蘇生法(AED取扱い)の研修会を開催しているほか、感染症の対応についてシミュレーションをするなど有事に備えている。	症状や状況に応じたマニュアルの整備及び対応方法について法人全体のものだけでなく、事業所の状況に応じた具体的なフローチャート等を誰でもがすぐに確認できる場所に設置するなど実践的な対応を望みたい。さらに、マニュアルに基づいた勉強会や訓練を繰り返し実施することで、職員の実践力を高めていくことを期待したい。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っている。近隣施設の職員も含め年2回の避難訓練を行っている災害時せ備蓄品も整えた。	火災想定避難訓練を年に2回実施しており、近くの小規模多機能事業所と合同で行なうことで協力体制を築いている。また、年に1回、地域の防災訓練にも参加している。有事に必要な物品などの備蓄も整えている。	昨今の自然災害の発生と被害状況の甚大さに鑑み、地震や風水害(津波も含む)のマニュアルの整備と、それに基づく訓練の実施を繰り返し行うことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の名前の入った書類関係、広報等写真や個人情報には特に留意している。不適切ケアの振り返りを行ないご利用者の自尊心や羞恥心に配慮した支援に努めている。	下駄箱の記名から広報誌の写真の掲載までプライバシーには特に配慮しており、本人や家族に確認を取っている。日常的に利用者への個別の言葉掛けについては、耳元でさり気なく伝えるよう徹底している。また、接遇についての研修を行なって、学びを深めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の生活の中で意思の尊は勿論の事、ご利用者がご自身の気持ちを表現できる関係作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の生活を職員の業務の一環としない様生活のリズムや過ごされ方はなるべくご希望にそえる様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の衣類選びはご利用者で行ない、職員が用意した衣類ではなくご自身が選ばれたお好きな衣類やイヤリングをつけお過ごしになられている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者が感じる五感を大切に調理を行ない、簡単な食事の下ごしらえ等、食事の後片付けはご利用者から率先し行っている。	1階ユニットは、食材調達の省力化と栄養管理の徹底を目的として、食材の配達を頼んでおり、メニュー表のレシピに従い調理を行なっている。2階ユニットは職員がメニューを作り、食材の買い出しも行なっている。利用者の希望を取り入れやすく、家庭的な料理の提供が出来る。月に2回、同法人の障害者施設が作っている麺類でラーメンやうどんを調理している。食事作りから後片付けまで利用者の出来る範囲で一緒に行なっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者から希望がある食事は月に数回メニューに入れその他は栄養面、食事形態は個々のご利用者の状態に合わせ水分量も記録し職員が把握できる様努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声かけを行っている。ご利用者の支援状態やその時の状態に合わせて行っている。義歯は職員がお預かりし洗浄剤で清潔保持を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	経過記録に排泄状況を記録している。ご利用者の排泄習慣を理解し紙パンツ類をご使用され並行にトイレの使用を行ない出来るだけパットに頼らない支援を行っている。	ほとんどの利用者が排泄は自立しており、介助する場面は少ない。事業所での生活で気持ちが安定し、テープ止めオムツから徐々に布パンツにまで改善できた事例もある。オムツ使用の方でも可能な限りトイレで排泄出来るように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無のチェック表を活用し水分摂取や乳製品を活用し予防にも取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員のタイミングではなくご利用者のタイミングや希望に合わせて支援を行っている。またご利用者に対し声のかけ方も工夫し行っている。	ほぼ1日おきのペースで入浴を支援している。利用者ごとに湯を入れ替え、湯の温度もその人に合わせている。入浴剤を使用して気持ちよく入ってもらったり、入浴後の楽しみを準備して入浴が楽しめるような試みも行なっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜問わずご利用者の生活習慣に合わせて支援を行っている。夜間帯でも眠れないご利用者には傾聴を行ない、日中でも休息が必要なご利用者にはお部屋で休んで頂く支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者の内服については受診後に報告書を提出し職員間で情報の共有を行っている。また受診前も状況の共有を行ない受診時、主治医に状態の報告できる様努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今まで住まれていたご近所の方の面会や美容院等馴染みの関係が繋がりを継続している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者の外出の希望内容にもよるが、なるべくご希望に沿える様努めている。ご希望に沿えない時は希望に近くなる支援をお伝えする等の対応を行っている。	新型コロナウイルス感染拡大前は季節のお花見や誕生日の外出、近くの喫茶店にコーヒーを飲みに出掛けるなど、頻繁に外出していた。最近では車から降りずにドライブに出掛けたりしている。事業所周辺の散歩は今でも続けており、近所の方と挨拶を交わすのも楽しみとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者からお預かりしているお金は外出時や趣味や欲しい物等ご利用者が必要とする事に使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設にご入居後も今まで通りご利用者の大切な方との繋がりを継続できる様手紙や電話、面会等のやり取りを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内の設えは季節にあったものやご利用者とボランティアの共同の作品等を展示している。ご利用者の動線に注意し障害物にならない様家具の設置には注意をしている。	事業所内は整理整頓されており、清潔に保たれている。壁の掲示物や装飾は利用者の目線に配慮して低めに設置されている。トイレの汚物は小まめに捨てることを徹底し、室内に臭いがこもらないように注意している。季節に応じた空間づくりを行なって居心地良く過ごせるように考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設内の共有空間はホールになるが狭いながらソファの配置で他のご利用者との視線が合わない様、共有空間の中でも一人の時間になれるよう工夫は行なっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設にご入居の際に今までご使用されていた物をそのまま使わせて頂き、ご利用者には住まいは変わってもご自分の空間はなるべく安心してお過ごしになれる空間作りの提案を行っている。	1階、2階共に全室畳部屋であるが、利用者の使い勝手が悪いため、フローリングシートを敷くなどしている。今後はフローリングへの改修工事を進めていく予定である。居室の入り口扉には鍵が付いており、夜間など施錠し安心して休まれる方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員は担当するご利用者の生活を把握しユニット会議でご様子や変化を検討している。また、検討した内容は職員間で情報の共有を行ない安全な環境で過ごされる支援を行っている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				